

# クリスマスの謎を追う

## サンタ搜索チーム再始動

「サンタクロースは、本当にいるの？」世界中の子どもたちが抱いてきた謎を解き、その存在を明らかにする。その動向が注目される。

## 今年で「子どもの夢」テーマに 7年目

どうしんプロジェクト

どうしんサンタ搜索チームの発足は2010年。北海道新聞社に本部を置き、三田育三本部長の指揮のもと、毎年11月下旬ごろから全道各地で搜索活動が続けてきた。その手法はさまざまで、

周囲への聞き込みや過去の目撃情報による張り込みのほか、独自の搜索アイテムも開発し、赤鼻のトナカイから発せられる特殊波をキャッチし、サンタの位置を知る「トナカイレーダー」や最新式カ

メラなどを用いてきた。こうした努力により、さっぽろテレビ塔上空付近でサンタと思しき謎の影を捉えたほか、赤い服の布の一部や足跡など、多くの証拠品を押さえるも、その存在を証明する

までには至らなかった。今年25日、同チームは北海道新聞社で会見を開き、チーム再始動を表明。「子どもの夢」をキーワードに関連事項から搜索のヒントを得て取り組むこととしている。

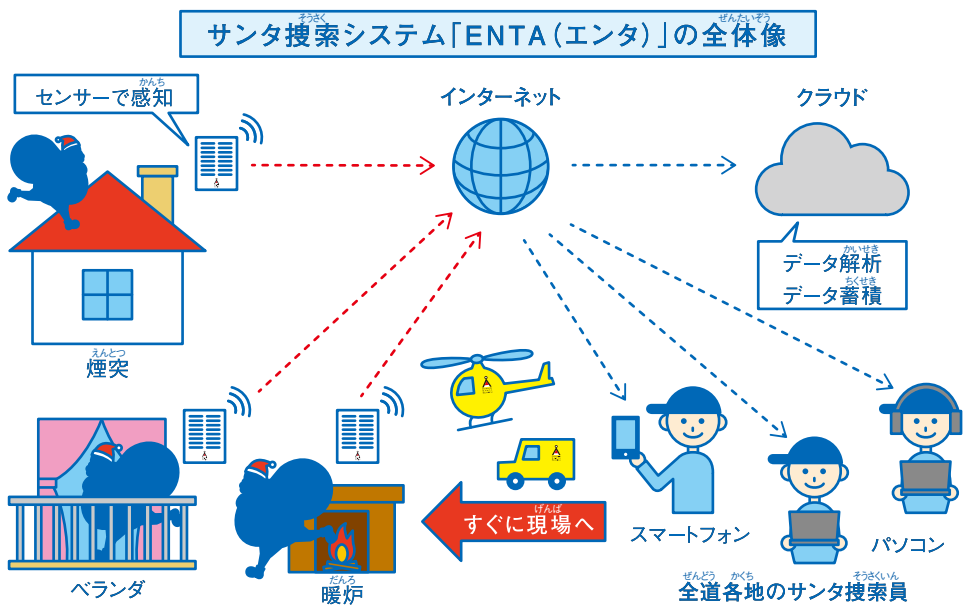
サンタ搜索チーム本部長 三田育三氏コメント

われわれはこの1年間、どのようにサンタの証拠をつかむか必死に考えた。これまでの経験から、サンタは存在するし、北海道にも毎年来ているのは確かだ。今年もついに本格的にサンタ搜索に突入できる時期が来た。過去の搜索実績や読者からの情報、そして子どもたちの声を支えに、搜索チーム一丸となってサンタ搜索に取り組み所存である。世界中の子どもたちの夢のため、今年こそサンタの謎を解き、証拠をつかみたい。

## 煙突にセンサー・ネットで収集

会員では、同チームに新たに導入されるサンタ搜索システムも発表。その名も「サンタ情報収集システム「ENTA（エンタ）」」。これは12月23日以降、まきストーブや煙突内に設置したセンサーで体温を感じ、

すると、インターネット回線を通じて搜索チーム全員に自動的に連絡が入り、近くにいる捜査員がすぐに駆け付けられるというもの（図）。このシステム開発の背景には、搜索が広範囲に及び、サンタ発見から捜査員到着までにタイムラグが生じてしまうという問題がある。



（図）新「サンタ搜索システム」「ENTA（エンタ）」の全体像。サンタが煙突に近づくとその体温をセンサーが感知し、搜索チームに連絡が入るシステム。



「ENTA」のセンサー部分のイメージ。

### どうしん夢プロジェクト 広告企画

## 新設「子どもの夢応援部」

## 「子どもサンタ搜索隊」を設置、共同捜査も



これまでのサンタ搜索記事や絵本などを参考に、サンタ搜索方法を検討する「子どもサンタ搜索隊」のメンバー

25日、どうしんサンタ搜索チームは、今年度の体制を発表した。大幅な構造改革から3年目の今年、基本的な体制は昨年度を踏襲するも、「子どもの夢」をかなえるため、別部署だった「子どもサンタ搜索課（教育部）」と「夢見る子ども応援課（教育部）」を「子どもの夢応援部」として統合し活動を強化する。同部はすでに活動を開始しており、「子どもサンタ搜索隊」を発足した。11月中旬には、札幌市白石区在住の子どもたちを搜索隊に迎え、「第1回子ども搜索会議」を開催。サンタの姿の予測や搜索方法などが話し合わ

るため、北海道新聞社が立ち上げた「どうしんサンタ搜索チーム」が、今年も活動を再開する。サンタ搜索7年目を迎える同チームが、その存在を証明できるのか。その動向が注目される。

### 企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解ご了承ください。次回11月下旬朝刊予定。

## クリスマスケーキにも、地産地消を

な時間をもたらす。おいしい素材が豊富にそろった北海道は、クリスマスケーキの味わいも格別のはず。クリスマスも「地産地消の味」を楽しむ。でみてはいかがだろうか。

